



諸宗教の経済観と限定的な循環性

宗教と経済倫理の統合的理解のための循環的観点の考察

2025年6月22日

洪吉童 教授
韓国宗教経済研究所

目次

1	序論および研究目的	7	経済循環過程別の宗教の役割
2	経済倫理と循環性の概論	8	経済学派と宗教思想の比較
3	倫理学体系と経済学の関係	9	価値理論別の分配 / 消費
4	宗教別の循環論理（儒仏道・西教）	10	現代資本主義と宗教的循環性
5	宗教別の永生観と経済観の比較	11	総合図表およびグラフ
6	四つの経済倫理理論と宗教の対応	12	結論および示唆点

序論および研究目的

● 宗教の経済観の現代的意義

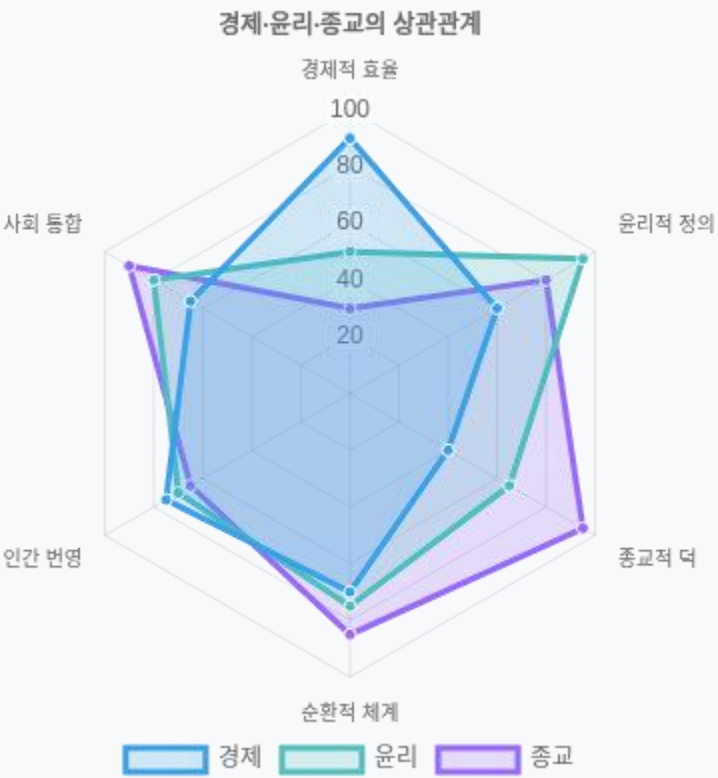
宗教の経済思想は、抽象的な宗教思想を具体化して表現する核心的な宗教の構成要素であり、その隠された意味を把握する重要な鍵となります。

● 経済と倫理の相関性

経済と倫理はヤヌスのように相反しながらも同時に現れる非常に密接な関係であり、歴史的に互いに長期関数のような関係を示してきました。

● 研究の目標

宗教、経済学、倫理学の統合的理解を通じて、現代資本主義社会に必要な循環的世界観を再照明し、宗教思想に内在する経済倫理の現代的適用方策を模索します。



경제、倫理、宗教の相互連関性

経済倫理と循環性の概論

● 経済と倫理の相反的關係

現代資本主義経済学は極力否認するが、経済と倫理はヤヌスのように常に相反しながらも同時に現れる非常に密接な関係です。

● 逆（逆）の關係

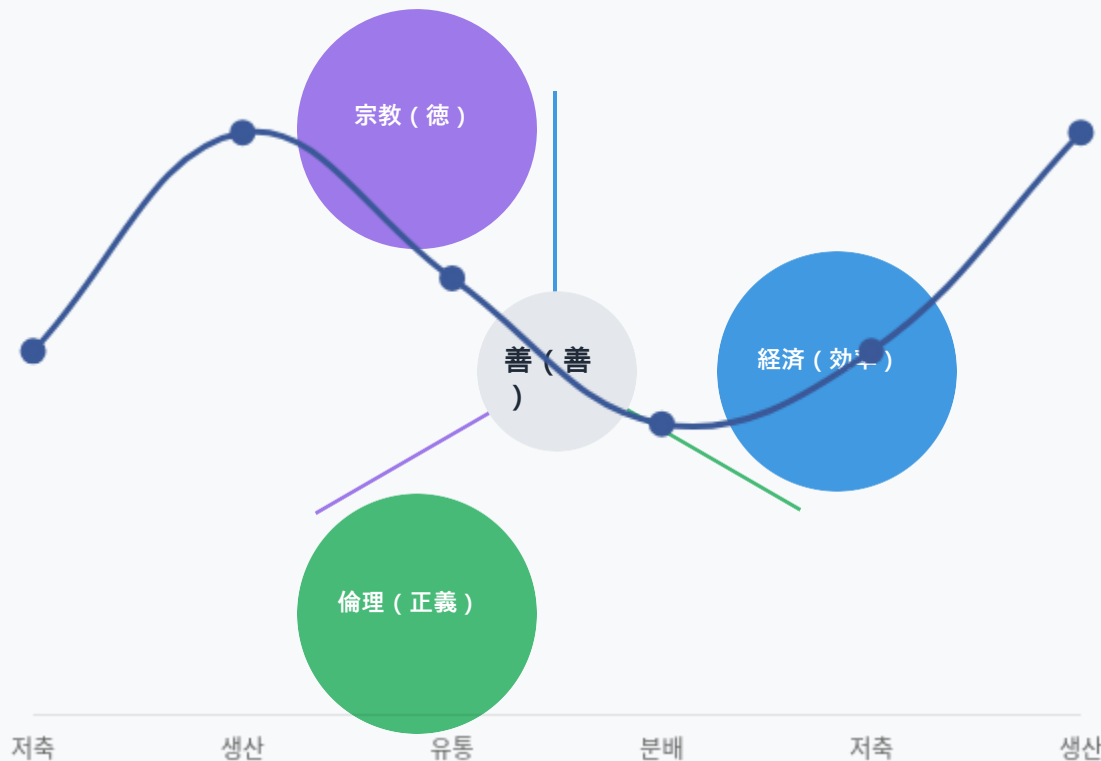
経済の逆が倫理であり、倫理の逆が経済であると言えるほど密接な関係にあり、歴史的に経済と倫理は互いに長期関数のような関係を示してきました。

● 循環性の核心

経済と倫理は善（善）を中心に統合され、政治あるいは宗教という徳（徳）を通じて仲介されます。それぞれは行為、制度、存在を代表します。

● 希少性と豊かさの循環

希少な資源から財物が生まれ、不足した徳から能力が生まれ、制限された正（正）から権利が生まれます。これらはすべて善へと統合される循環的構造を形成します。



経済倫理の循環的構造

経済と倫理はそれぞれ効率と正義を追求しますが、究極的には善（善）という共通価値を志向します。この循環的關係は宗教思想に深く反映されています。

倫理学体系と経済学の関係

● 倫理学の三分法

倫理学は時代順に、徳（卓越）を強調するアリストテレス倫理学、正（正）を強調するカントの義務論的倫理学、善（善）を強調する功利主義的倫理学という三つの伝統を持つ

評価対象 \ 価値概念	基本的価値言語	操作的価値言語	究極的目的
行為	善（善）	効率	効用
制度	正（正）	正義	権利
存在	徳（徳）	卓越	能力

表2.1 倫理学の体系

● 経済学と倫理学の接点

経済学も倫理学と同様に、行為（善-限界効用学派）、制度（正-制度学派）、存在（徳-贈与論的経済学）という三つの課題を中心に理論を展開する

● 倫理と経済の統合

経済と倫理は善（善）を中心に統合され、政治あるいは宗教という徳（徳）を通じて仲介される。経済・倫理・政治（宗教）はそれぞれ行為、制度、存在を代表する

● 自由は共通の価値規範



경제・倫理・政治（宗教）の統合構造

宗教別の循環論理

循環的論理の思考枠組みに従って東西洋の宗教の論理体系を比較すると、次のような特徴が見られます：

- 儒教 (XはXであり、-Xは-X)

君主は君主らしく、臣下は臣下らしく行動すべきという明確な区分と義務を強調。知ることは知ると、知らないことは知らないとする明確性を追求。

- 道教 (Xは-Xであり、-XはX)

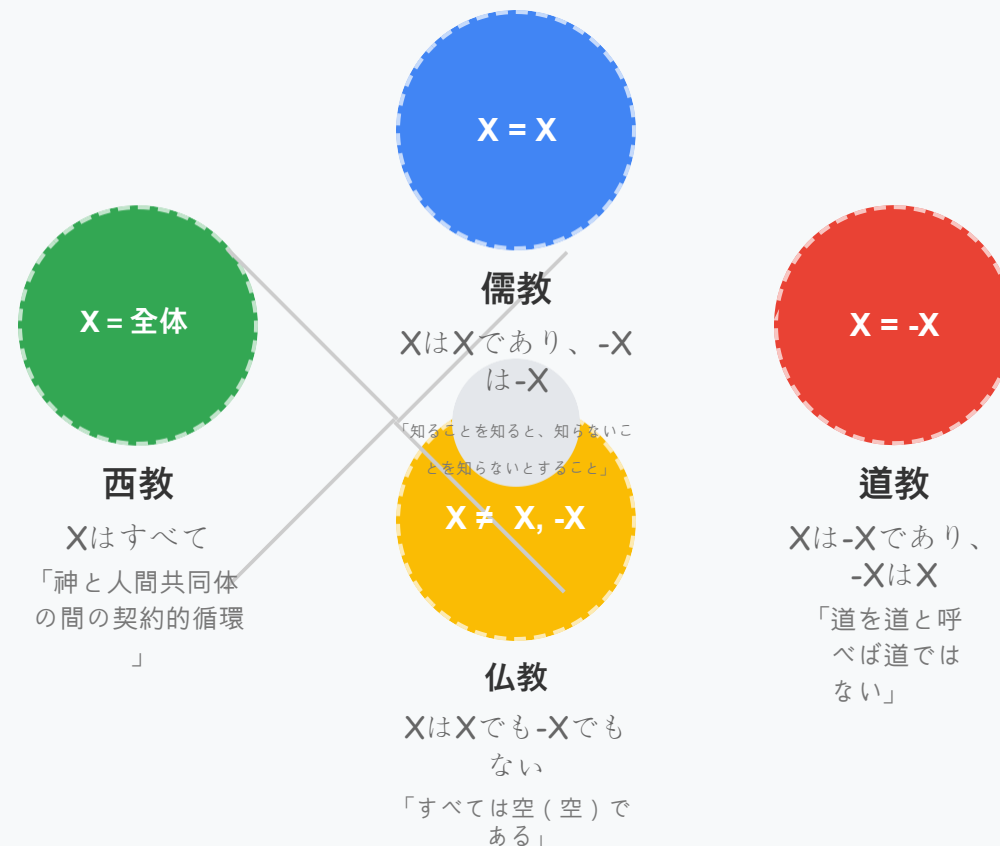
道を道と呼べば道ではないという逆説的アプローチ。最も強いものは最も弱い水であり、友は仇であり仇は友であるという相互転換的な世界観。

- 仏教 (XはXでも-Xでもない)

すべては空（空）であるという中道的世界観。友も仇もなく、あらゆるものに実体がないことを強調する縁起論的な思考体系。

- 西教 (Xはすべて)

神と人間共同体の間の契約的循環を重視。個人より共同体、物質より精神を追求する包括的な博愛（博愛）中心の世界観。



宗教別の永生観と経済観の相関関係

宗教別の永生観は、各宗教の経済思想と循環関係の核心を示します。永生を追求する方法と観点に応じて経済観が形成されます。

西教 - 靈魂永生 (靈魂永生)

「Xはすべて」- 神と人間共同体の間の契約的循環

共同体中心 & 来世志向

仏教 - 輪廻転生 (輪廻轉生)

「XはXでも-Xでもない」- 縁起論と法輪による万物の循環

社会契約的 & 倫理的分配

儒教 - 招魂再生 (招魂再生)

「XはXであり、-Xは-X」- 人倫における循環と現世志向

共同体中心 & 現世生産

道教 - 肉身永生 (肉身永生)

「XはXでも、-XはX」- 無常自然の循環と個人志向

個人中心 & 現世生産



宗教別の永生観と経済観の連結構造

経済観と永生観の相関関係

- 西教 (靈魂永生) → 流通中心の経済観 (象徵価値、贈与)
- 仏教 (輪廻轉生) → 分配中心の経済観 (交換価値、分配)
- 儒教 (招魂再生) → 生産中心の経済観 (生産価値、生産)
- 道教 (肉身永生) → 消費中心の経済観 (消費価値、消費)

四大経済倫理理論と宗教の対応

経済倫理理論は宗教の循環論理と類似したフラクタル構造を形成し、次のように対応します：

道

道教 ↔ 自由至上主義

「Xは-Xであり、-XはX」という道教は、個人の自由を強調する自由至上主義と連携します。無為自然の道に従う自由な経済活動を志向します。

儒

儒教 ↔ 功利主義

「XはXであり、-Xは-X」という儒教は、最大多数の最大幸福を追求する功利主義と連携します。公的利益と秩序を重視します。

佛

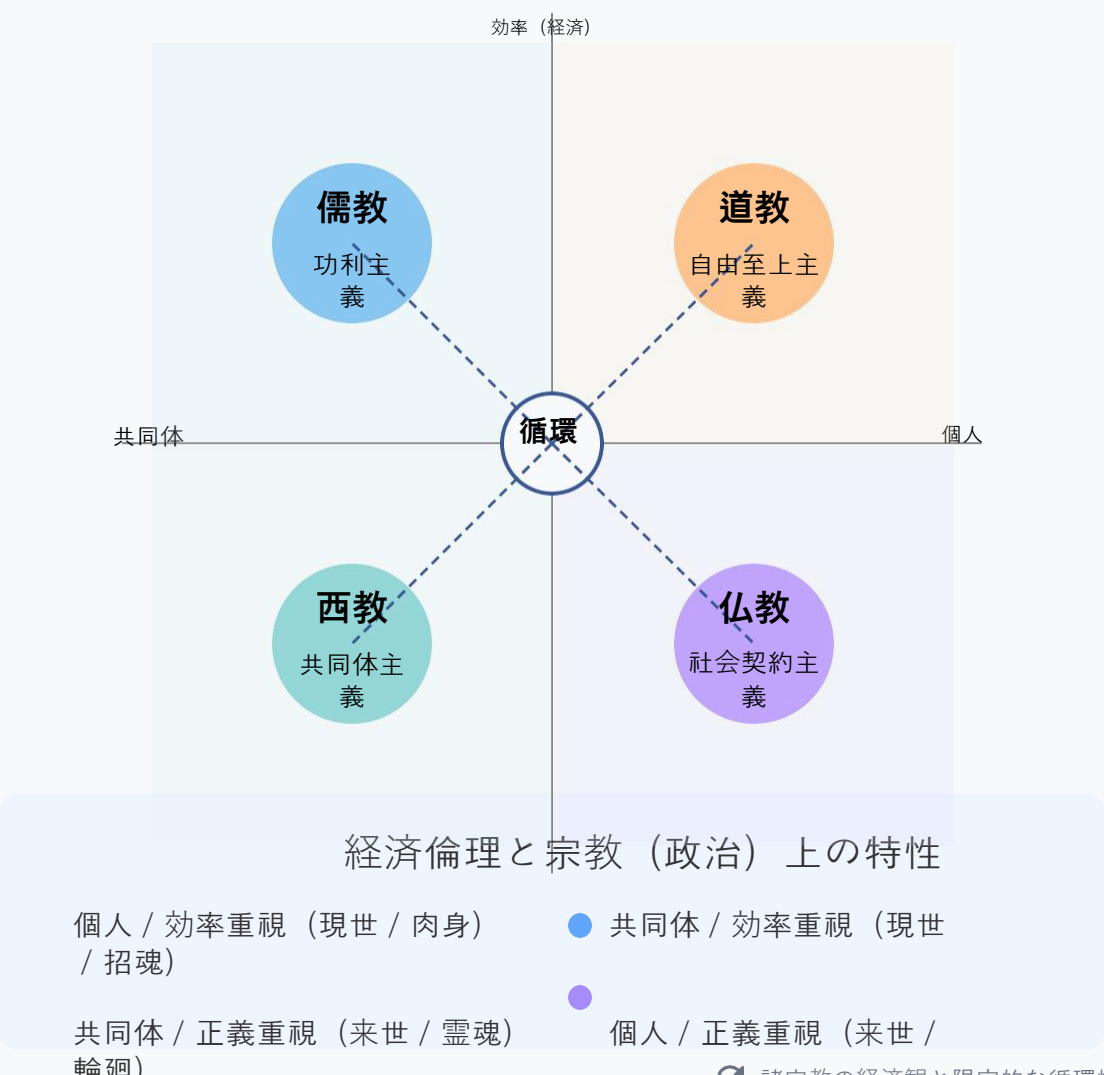
仏教 ↔ 社会契約主義

「XはXでも-Xでもない」という仏教は、義務と権利を重視する社会契約主義と連携します。個人の権利を尊重する公正な分配を志向します。

+

西教 ↔ 共同体主義

「Xはすべて」という西教は、博愛（博愛）を強調する共同体主義と連携します。共同体と分かち合いの価値を重視します。



經濟循環過程と宗教別の役割

經濟循環の四段階と宗教の役割



貯蓄 – 道教

「Xは-Xであり、-XはX」- 道教は未来に備えて現在を準備する財富觀（財富論）を通じた經濟循環に重きを置きます。自由至上主義的な性向を示し、個人の富の蓄積を重視します。



生産 – 儒教

「XはXであり、-Xは-X」- 儒教は蓄積された財産で人間と社会を組織し、生産に臨ませます。功利主義的アプローチを通じて社会全体の効率的な生産を重視します。



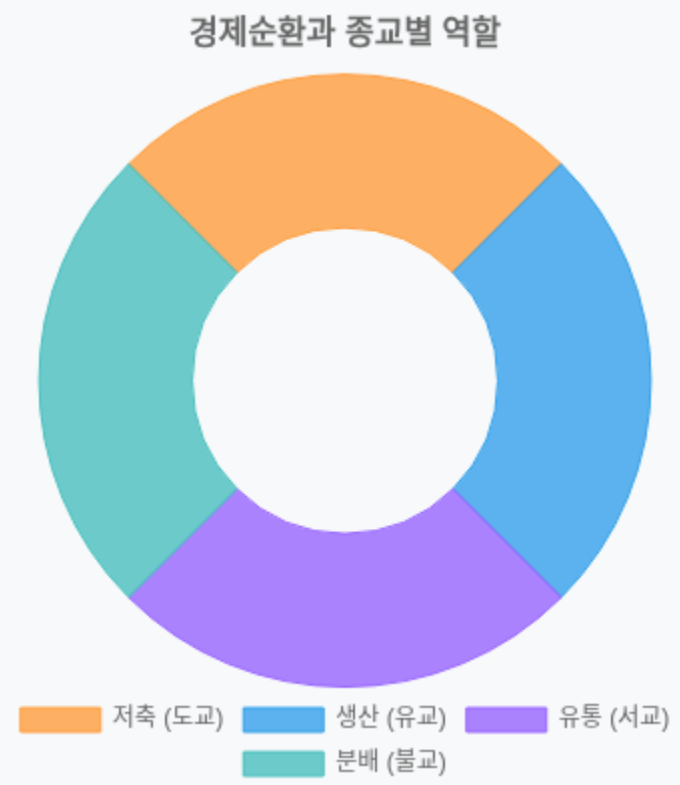
流通 – 西教

「Xはすべて」- 西教の博愛思想は、生産された財貨を広く贈与・流通させる役割を果たします。共同体主義的アプローチを通じて社会全体の共有と分かち合いを強調します。



分配 – 仏教

「Xはすべて」- 仏教は経済活動と別々の世界に分配する役割を担い、社会



經濟循環構造と宗教別の役割

循環的經濟觀の特徴

経済学派と宗教思想の比較

● 経済学派と宗教思想の対応関係

諸宗教の経済思想は、主要な経済学派と本質的に類似した構造を持ちます。宗教の経済観と学派の価値理論はフラクタル構造のように互いに似ており、これは経済と宗教が共有する根本的な問いに対する答えです。

宗教	経済倫理	経済観	経済学派	価値理論
道教	自由至上主義	財富観	新古典派	使用価値
儒教	功利主義	労働観	ケインズ主義	記号価値
西教	共同体主義	財貨観	制度学派	象徴価値
仏教	社会契約主義	分配観	古典派 / マルクス主義	交換価値

● 宗教の経済循環的観点

各宗教は貯蓄-生産-流通-分配という経済循環過程において互いに異なる役割を果たし、これが経済学派の重点研究領域と一致します。



경제学派と宗教思想の相関関係

主要な特徴の比較

- ▶ 新古典派：個人の効用と自由を重視
- ▶ 道教：個人と自然の調和を強調

価値理論と分配の現代的争点

経済学派ごとに商品に内在する価値を見る観点が異なり、これは分配と消費に直接的な影響を及ぼします。

使用価値 (Use Value)

新古典派経済学：財貨の使用の効用性に基づく
分配への影響：効率性中心、個人選好を優先

交換価値 (Exchange Value) 古典派 / マルクス主義：投入された労働に応じた価値決定 分配への影響：公正な労働価値の分配を重視

記号価値 (Sign Value)

ケインズ主義：社会的革新と有効需要に基づく価値
分配への影響：模倣消費と誇示消費を促進

象徴価値 (Symbolic Value) 制度学派：贈与と文化的価値に基づく 分配への影響：共同体中心の分かち合いと循環を強調



価値理論に応じた分配および消費の特性の比較

ボードリヤールの価値理論の統合

「あらゆる事物は四つの経済的価値を持っている。例えば手に持っているりんごは、食べれば使用価値であり、交換すれば交換価値、記号として用いられれば記号価値、他人に贈与すれば象徴価値となる。」

結論および示唆点

研究結果の要約

諸宗教はそれぞれの循環論理体系を持っており、儒仏道・西教は貯蓄-生産-流通-分配という経済循環過程と密接に連携していることを確認しました。

経済倫理と宗教の統合

経済倫理（自由至上主義、功利主義、社会契約主義、共同体主義）と宗教思想（道教、儒教、仏教、西教）は、フラクタル構造として類似したパターンを共有しています。

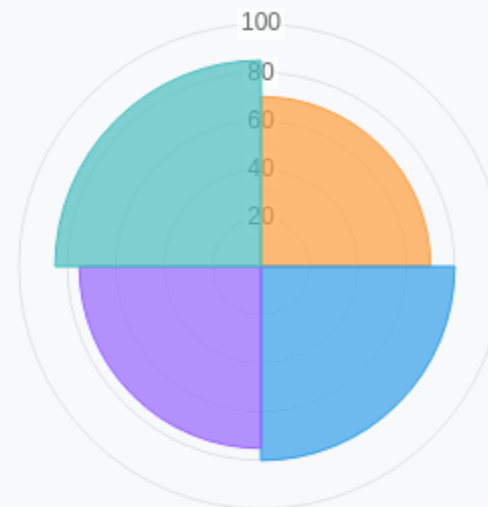
現代的含意

循環的な宗教経済観は、現代資本主義の持続可能性の危機と倫理的空白を埋めうる代替的パラダイムを提供します。とりわけ「無限成長」という神話から脱し、「持続可能な循環」への転換のための理論的基盤となりうます。

今後の課題

宗教経済思想の現代的適用方策の模索、多様な文化圏における検証、そして持続可能な経済モデルへの統合のための実践的研究が必要です。

종교-경제-윤리 통합 모델



도교-재부관-자유지상주의 유교-노동관-공리주의 서교-재화관-공동체주의
불교-분배관-사회계약주의

宗教-経済-倫理の統合的モデル

循環的な宗教経済観の主要な示唆点

- 経済は倫理的価値を内包した循環システムである 四つの価値（使用・交換・象徴・記号）の均衡が必要 宗教的世界観は経済倫理の根幹となる
- 循環的世界観は持続可能な発展の鍵